

経営的施策Ⅲ 広報広聴・シティプロモーション

R9年度末に目指す状態

まちへの愛着・まちづくりへの共感が広がり、地域に関わろうとする意欲が増えている

施策の現状 (取組成果)	① 多様な広報媒体による情報発信と共有を通じて行政活動を可視化するほか、地域への興味・関心を高め、行政・地域・市民相互のより良い関係づくりをサポートしています。 ② パブリックコメント、住民説明会、市長懇談会やティーミーティング、ワークショップ、アンケート等により市民の意向を把握し、市政への反映に努めています。 ③ いこまち宣伝部やプロモーションサイト「グッドサイクルいこま」等、地域との関わりをデザインして、地域の協力者を増やしています。 ④ 生駒山や宝山寺、茶釜といった観光資源を活かし、市外からの認知獲得や来訪者増加につなげています。
主な課題	①② 多様な主体とのコミュニケーションを充実させ、行政運営に反映させたり、市民参画につなげたりすることが必要です。 ①③ 「住む」「働く」「楽しむ」が満たされるまちへと転換する時期にあることを伝え、その方向性に共感を広げることが必要です。 ③ 機能的な価値にとどまらず、心理的な価値を軸にした情報編集によって、都市イメージをより豊かに発展させることが必要です。 ④ 観光資源だけでなく、日常生活を豊かにする活動を知ってもらい、来訪意欲や居住・参画意欲につなげる必要があります。

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

		担 当 課		企画政策課		
事業名	No.1	道の駅の整備に向けた調査検討業務				
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	2 項 1 目 6	
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティプロモーション		戦略的施策	☒ 行政改革大綱 (2)	
根拠法令等					事務区分 自治事務	
事業期間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R6 年度～ 年度)					

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	雇用就労の機会創出や地域経済循環の促進による産業の活性化、交流人口増加による経済規模の拡大、拠点整備による交流・滞在の場の創出等といった効果が見込まれる道の駅について、基礎調査を実施し、整備の方向性の検討材料を収集する。	
事業概要(全体計画)	多様な視点からまちづくりにおける道の駅の役割を明確にするとともに本市の状況や社会情勢を調査し、道の駅整備の方向性を検討するための基礎調査を実施する。	
	事業の対象	— (対象数: —)
決算年度の取組	取組計画	取組実績(見込)
	【R6補正(繰越)】 委託内容 4,004千円 (1)市域等の現状把握と課題の整理 (2)先進地事例調査 (3)コンセプトの立案 (4)立地条件と規模の整理 (5)施設整備と管理運営手法 等 道の駅整備の方向性を踏まえた対応を検討	【R6補正(繰越)】 委託内容 4,004千円 (1)市域等の現状把握と課題の整理 (2)先進地事例調査 (3)コンセプトの立案 (4)立地条件と規模の整理 (5)施設整備と管理運営手法 等 道の駅整備の方向性を踏まえた対応を検討
	事業実施手法	☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他 ()

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	4,004	4,004	0
12委託料		4,004	4,004	
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	0	4,004	4,004	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源		4,004	4,004	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	多様な視点からまちづくりにおける道の駅の役割を明確にし、本市の状況や社会情勢等の基礎調査を実施したことで、市域への来訪者誘引等につながる道の駅の整備検討に向けた基礎資料を作成した。	
KPI	指標1	指標2
指標名(単位)		
目標値		
実績値		
目標値と実績値の差分についての理由		
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)		
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価 B	評価した根拠・理由 プロポーザル方式で公募を行い、事業者の能力や企画提案内容で委託先を判断、単に経費の安さではなく、最大限費用対効果を発揮できるよう努めた。
目的思考 (施策目標への寄与)	評価 B	評価した根拠・理由 本市の状況や社会情勢等を踏まえて道の駅の役割を明確にし、市域への来訪者誘引等につながるブランディングコンセプトの考え方を基礎調査結果の中で提示した。
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価 —	評価した根拠・理由 当該事業は基礎調査であり、整備の方向性が定まった次段階の検討で市民・事業者等への意見把握や詳細な民間活力導入調査を実施する予定であるため、本シートでは該当しない。
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価 B	評価した根拠・理由 客観的な数値による分析に加えて、道の駅竜王かがみの里及びアグリパーク竜王の視察を行い、運営事業者へのヒアリング内容を基礎調査結果に示した。
総合評価	評価 B	評価した根拠・理由 事業目的に沿った調査を行ったことで、道の駅の整備検討に向けた基礎資料の作成が完了し、予定どおりの成果を得ることができた。
事業実施上の課題・残された課題	基礎調査で示された候補地エリアにあたる学研高山地区第2工区やその周辺地域の価値向上に係る立地想定施設基本構想案等を踏まえて検討を進める必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由 道の駅整備の可能性と方向性を決定していくための検討を進めていく。

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

		担 当 課		企画政策課	
事業名	No.2 大阪・関西万博関連事業				
事業区分	継続	会計区分	一般会計	予算費目款	2 項 1 目 6
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティプロモーション		戦略的施策	☐ 行政改革大綱 (2)
根拠法令等					事務区分 自治事務
事業期間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☒ 複数年(R6 年度～ R7 年度)				

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	大阪・関西万博の会場へは生駒駅から直通でアクセスできるため、本市は非常に有利な立地である。奈良県万博実行委員会及び万博首长連合への参加により、催事等を通じたPRによる本市の認知度向上や関係人口の増加、インバウンドによる地域経済の活性化等を目的とする。				
事業概要(全体計画)	本市では令和5年度より、万博関連の取組を進めており、奈良県万博実行委員会等を通じて機運醸成の取組とともに、万博会場での自治体出展を行った。				
	事業の対象	— (対象数: —)			
決算年度の取組	取組計画		取組実績(見込)		
	万博参加に伴う県負担金 2,900千円 交通費 172千円 消耗品費 140千円		万博参加に伴う県負担金 2,900千円(16千円は返還) ▶パビリオン催事等事業 ・関西パビリオンでのVR体験実施 ・森の集会所催事での茶釜の里PR ・高山竹あかりでの万博冠イベント ・ナイスポ!での市内向けVR体験実施 等 交通費 70千円 消耗品費 100千円 その他 ▶万博協会よりVR機器の無償譲受		
	事業実施手法	☒ 直接実施 ☐ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()			

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	2,909	3,212	3,070	0
12委託料				
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金	2,900	2,900	2,900	
その他	9	312	170	
財源(千円)	2,909	3,212	3,070	0
特定財源				
市債				
その他				
一般財源	2,909	3,212	3,070	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	催事において生駒山観光のVR体験や茶釜の里などのPRを行い、約27,000人の方に本市の魅力を周知することができた。また、アンケート回答者の約90%が市域への来訪意欲を示され、認知度向上や市域来訪者の誘引を図ることができた。				
KPI	指標1		指標2		
指標名(単位)					
目標値					
実績値					
目標値と実績値の差分についての理由					
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)					
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由			
	B	奈良県と連携する催事出展に積極的に参画することで、負担金に対する費用対効果を高めた。また、奈良先端大や茶釜組合等との連携によって費用を抑えて催事を実施することができた。			
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由			
	A	万博会場催事において生駒山観光のVR体験や茶釜の里など観光資源のPR実施によって、認知度向上や来訪者の増加を図った。			
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由			
	A	奈良先端大との連携、近鉄GHDや茶釜組合等には協力をしていただき、催事の検討・実施ができた。			
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由			
	B	観光資源PRに向けた新たなコンテンツとして、VR技術を活用することができた。また、催事体験者にはアンケートをとり、事業の効果を図ることができた。			
総合評価	評価	評価した根拠・理由			
	B	奈良先端大との連携、近鉄GHDや宝山寺等との協力を行うことで、取組に要する費用を押さえつつ、予定どおりの成果を得ることができた。			
事業実施上の課題・残された課題	万博催事出展に向けて作成したVR動画の利活用が今後の課題である。				
今後の取組方針	完了	判断理由			

担	当	課	広報広聴課
---	---	---	-------

2 事業の概要・実施内容

3 事業費・財源内訳

4 事業の成果・評価

行革評価(行政改革大綱に基づく評価)

事業実施上の課題・残された課題	コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価 B	評価した根拠・理由 託児の予算を計上していたが、利用者なしのため、費用をかけずに事業を実施できた。
	目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由
		B	市長や各部長による説明と市民からの意見聴取やワークショップにより、広報・広聴の好循環を生むことに寄与した。
	多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由
		B	希望する多くの市民に参加いただき、直接意見を聴くことができた。特に、いこま考座については、一般参加に加え、公募市民等候補者登録名簿に登録されている市民に案内文を郵送し、登録者に多数参加いただいた。
	デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由
		B	タウンミーティングの質疑応答では、挙手による口頭質問に加えて、イベント参加者とのコミュニケーションアプリ「slido」を使い、スマートフォンからの質問もその場で受け付けし、対応できた。
	総合評価	評価	評価した根拠・理由
B		市から能動的に政策・事業への理解を促す機会を提供し、市民の声を積極的に聴き、想定通りの成果を得られた。	
事業実施上の課題・残された課題		いこま考座については、各部一律に実施することの難しさを実感したため、広報面・広聴面それぞれについて、各部の主体性を加味した内容にできるよう検討する必要がある。	
今後の取組方針	改善	判断理由	
		上記課題点などの改善を実施した上で、広報・広聴の好循環を促進するために引き続き継続していく。	

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

担 当 課		広報広聴課	
事業名	No.4	e-広聴プロジェクト	
事業区分	継続	会計区分	一般会計
施策体系	Ⅲ	広報広聴・シティプロモーション	戦略的施策
根拠法令等			行政改革大綱 (1)
事業期間	☐ 単年度(年度) ☒ 単年度繰返(令和7 年度～継続) ☐ 複数年度(年度～ 年度)		事務区分 自治事務

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果		市民の声を広く聴くとともに、その声を分析・共有することで、さらなる政策の立案や改善、事務の改善につなげていく。	
事業概要（全体計画）		以前行っていた「ききみみポスト」のデジタル版を実施する。「いつでも」「どこでも」「簡単に」意見が言えるシステムを構築する。また、CMSのご意見・お問合せのデータを活用し、分析することで、市民の要望の傾向をつかみ、共有する。	
事業の対象		（対象数： ）	
決算年度の取組	取組計画		取組実績（見込）
	・デジタルききみみポスト…CMSなどのツールを活用し、二次元コードから自由に回答してもらう。期ごとにテーマを定めたWebアンケートも検討。 ・テキストマイニング分析ツール等を導入 ・分析の精度向上に向けた取組 ・分析内容の各課での共有		・CMSのご意見・お問合せフォームの改修委託を行い、令和7年10月からデジタルききみみポストを開始。市ホームページの投稿フォームや、市役所や公共施設の窓口に設置した二次元コードから「いつでも」「どこでも」「簡単に」意見を投稿できる環境を作った。
	事業実施手法		☐ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☐ 負担金・補助金 ☐ その他（ ）

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	0	572	286	0
12委託料		572	286	
14工事請負費				
18負担金補助及び交付金				
その他				
財源(千円)	0	572	286	0
特定財源		286	143	
市債				
その他				
一般財源		286	143	

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)	市民からの広聴手段を拡大。いただいた意見の中には、実現したり実施に向けた検討を行っている事業もあり、広聴による政策の改善、事務の改善につながった。	
KPI	指標1	指標2
指標名(単位)	デジタルききみみポストの受付件数(件/年)	
目標値	120	
実績値	65(令和8年3月23日時点)	
目標値と実績値の差分についての理由	目標設定は、1日10件程度×12か月という計算をしており、10月の導入後半年の実績は65件(令和8年3月23日時点)。平均すると月10.8件であり、目標通りの実績である。	

行革評価(行政改革大綱に基づく評価)

コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由
	B	既存のCMSのフォームを活用して費用を最小限に抑えたと共に、新しい地方経済・生活環境創生交付金を1/2充当して事業を実施した。
	評価	評価した根拠・理由
	B	広聴手段を拡大し、政策の改善、事務の改善につながった。
	評価	評価した根拠・理由
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	B	市民の意見を把握し、政策の改善、事務の改善につながった。
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由
	B	市ホームページの投稿フォームや、市役所や公共施設の窓口に設置した二次元コードから「いつでも」「どこでも」「簡単に」意見を投稿できる環境を作った。
総合評価	評価	評価した根拠・理由
	B	最小限のコストで、政策の立案や改善、事務の改善につながる問題発見のきっかけとなる市民の声を広く聴く取り組みを実現した。
事業実施上の課題・残された課題	テキストマイニング分析ツールについては、ツールがインターネットのクラウド上に存在するため、個人情報が含まれる投稿を手作業で排除する必要がある。デジタルききみみポスト含む問合せメール全般を含めると、年間2,000件ほどあり、実施が困難な状況である。今後、分析や庁内共有の方法を検討していく必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由
		引き続き市民の声を広く聴き、政策の立案や改善、事務の改善につなげていく。

令和7年度アクションプラン 事業評価シート【行政改革推進委員会審査用】

1 基本情報

1 基本情報				担 当 課		広報広聴課				
事 業 名	No.5		都市イメージ形成事業							
事 業 区 分	継続	会 計 区 分	一般会計	予 算 費 目	款	2	項	1	目	4
施 策 体 系	Ⅲ	広報広聴・シティプロモーション			戦 略 的 施 策		☒	行政改革大綱		(4)
根 拠 法 令 等								事 務 区 分	自治事務	
事 業 期 間	☐ 単年度(年度) ☐ 単年度繰返(年度～継続) ☐ 複数年度(年度～ 年度)									

2 事業の概要・実施内容

事業目的・事業実施効果	行政施策や地域情報などを様々なメディアを活用して発信し、特に市内外の働き盛り世代の人々に生駒に興味や関心を持ってもらう。また、「住む」「働く」「楽しむ」が満たされるまちづくりを進めていることへの理解・共感を広げ、来訪意欲や居住・参画意欲の向上を図る。				
事業概要 (全体計画)	プロモーションサイト・SNS「グッドサイクルいこま」を中心とした多様なメディアや広告等を活用しながら、市民PRチーム「いこまち宣伝部」と協働した情報発信を行う。				
	事業の対象	(対象数:)			
決算年度の 取組	取組計画		取組実績(見込)		
	▶いこまち宣伝部 …476千円 ▶いこまち宣伝部10周年事業 …2,250千円 ▶プロモーションサイト運営…1,838千円 ▶各種情報発信…4,339千円 ▶いこまちマーケット部…191千円		▶いこまち宣伝部 …454千円 ▶いこまち宣伝部10周年事業 …1,103千円 (主な内訳)委託料／707千円、消耗品／87千円 ▶プロモーションサイト運営…1,819千円 ▶各種情報発信…4,313千円 (主な内訳)デジタルプロモーション(ウェブ広告・専用ホームページ制作など)／1,890千円、SNS広告／423千円 ▶いこまちマーケット部…0千円		
	事業実施手法		☒ 直接実施 ☒ 委託・指定管理 ☒ 負担金・補助金 ☐ その他 ()		

3 事業費・財源内訳

	R6決算	R7予算現額	R7決算(見込)	R8予算
事業費(千円)	7,100	9,094	7,689	9,079
12委託料	6,473	7,184	6,801	7,572
14工事請負費	0	0	0	0
18負担金補助及び交付金	50	50	50	50
その他	577	1,860	838	1,457
財源(千円)	7,100	9,094	7,689	9,079
特定財源	0	3,460	2,881	4,475
市債	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
一般財源	7,100	5,634	4,808	4,604

4 事業の成果・評価

「めざす状態」実現に寄与したこと(事業の成果)		ポータルサイトの閲覧数は月間12,000PVほどで推移。SNS(Facebook・Instagram)のフォロワーは年間約800人増加し、生駒の情報に触れる人、興味関心を持つ人を増やしている。	
KPI	指標1		指標2
	指標名(単位)	ポータルサイト年間閲覧数	
	目標値	100,500PV(ページビュー)	
	実績値	160,000PV	
	目標値と実績値の差分についての理由	市民と協働した記事作成や、多様なメディアの活用、ポータルサイトとSNSの連携などを行った。	
行革評価(行政改革大綱に基づく評価)			
コスト意識 (費用対効果・財源確保)	評価	評価した根拠・理由	
	B	広告媒体やターゲットの精査を行うとともに、タブロイドの配布先の見直しなど、費用対効果の高い事業実施を心掛けた。	
目的思考 (施策目標への寄与)	評価	評価した根拠・理由	
	B	本市の魅力だけでなく、多様な暮らし方・働き方など将来都市像の実現に向けた情報発信に努め、目標を上回る方々にポータルサイトを見ていただいた。	
多様な主体との協創 (市民等への意見把握・民間活力等の活用)	評価	評価した根拠・理由	
	B	市民PRチーム「いこまち宣伝部」と協働したサイト・SNS運用を心掛けた。	
デジタル・データ活用 (デジタルの活用・EBPM)	評価	評価した根拠・理由	
	B	googleアナリティクスやSNSインサイトなど分析機能を使用し、サイト・SNS運用に活用した。また、Webアンケートを実施し、効果を測定した。	
総合評価	評価	評価した根拠・理由	
	B	市内外の働き盛り世代に生駒に興味関心を持ってもらうことができた。市民と協働した情報発信や分析機能を用いたEBPMなど行政改革大綱が掲げる行動指針に基づいた事業を実施した。	
事業実施上の課題・残された課題		本市のイメージは、自然・住宅街・アクセス良好といった一般的な印象で捉えられることが多いため、本市ならではの多様な暮らし方と住まい方を引き続き発信し、将来都市像の認知と共感を広げる必要がある。	
今後の取組方針	現状維持	判断理由	
		市外に向けた情報発信を積極的に行い、生駒市の認知度や来訪意欲の向上を図る。	